

「 II. 症例報告」

下葉胸膜下に多発する浸潤影を無治療で観察できたサルコイドーシスの

1 例

眞水飛翔^a 眞水麻以子^a 石川大輔^a

河上英則^a 古川俊貴^a 石田卓士^a

^a 新潟県立中央病院呼吸器内科

要旨

62歳女性が咳嗽で受診した。胸部CTで右下葉の胸膜下に多発する浸潤影を認めた。1か月後に胸部CTを撮像したところ、浸潤影に加えて結節影、塊状影が出現していた。胸腔鏡下肺部分切除による生検を行い、非乾酪性類上皮細胞肉芽腫、多核巨細胞をびまん性に認めたため、サルコイドーシスと診断した。浸潤影は融合した肉芽腫が肺胞を埋め尽くし、肺胞構造が消失したものであったが無治療で軽快した。下葉胸膜下に浸潤影を呈する非典型的なサルコイドーシスは画像による予後予測が難しく、CTによる厳重な経過観察が必要である。

キーワード：サルコイドーシス sarcoidosis, 浸潤影 consolidation,

非乾酪性類上皮細胞肉芽腫 non-caseating epithelioid cell granuloma,

多核巨細胞 multinucleated giant cell

短縮タイトル：下葉胸膜下の多発浸潤影を無治療で観察できたサ症